

# 「農業農村整備事業の効果」

## ③ 畑地かんがい編

■岩手県農林水産部農村計画課

今年の5～6月は、記録的な少雨となり、県内では盛岡地方気象台の観測史上、最も降水量が少なかった地点が多数ありました。

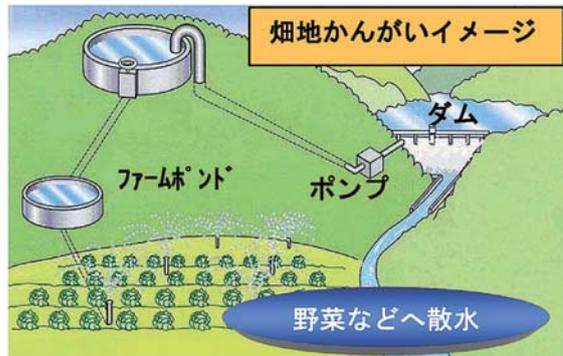
また、昨年は、6～9月まで高温・少雨の天候となり、畑作物を中心に農作物への影響が懸念されました。

このような中、かんがい施設を整備した畑地は、かん水利用により収量・品質を確保した事例が確認されており、畑地かんがい施設が高温・少雨対策に大きな効果を発揮したことから、その概要を紹介します。

### 1 畑地かんがいとは

畑地かんがいは、畑作物の栽培に必要な水を、ダムなどの水源から畑地に供給することを言います。

岩手県では、平成24年度までに約2,400haの畑地かんがいが整備されています。



### 2 畑地かんがいの効果

#### 畑地かんがいの効果

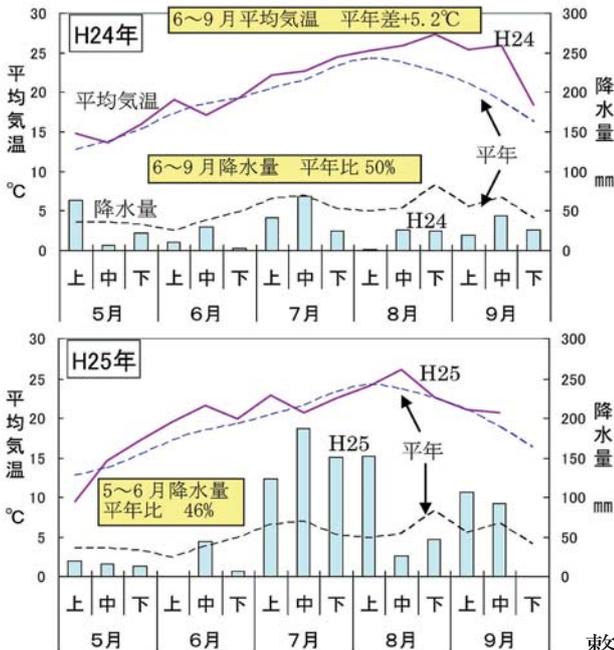
- ① 作物の収量・品質の向上、安定化
- ② 計画的な作付けが可能
- ③ 防除作業の省力化
- ④ 発芽・初期生育の促進
- ⑤ 施設園芸など高収益作物導入が可能
- ⑥ 団地化・産地形成が可能など

畑地かんがい（施設）は、農作物の栽培に必要な水を、「必要な時」に、「必要な分だけ」供給することができ、雨が極端に少なくても適期の定植が可能となり、収量・品質の向上、安定化が図られます。

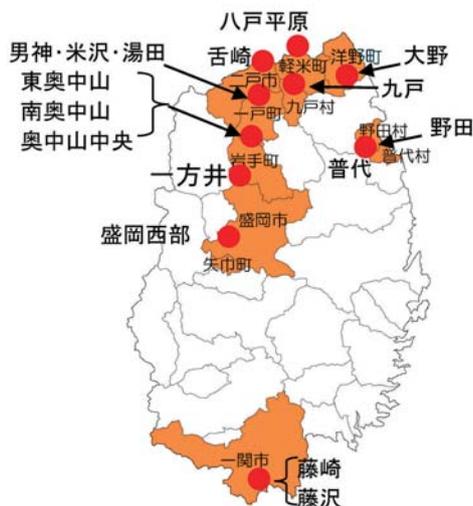
さらに、高収益作物の導入や防除作業の省力化が可能になるなど、様々な効果があります。

### 3 畑地かんがい効果の事例紹介

平成24・25年度に畑地かんがいを活用し、高温・少雨対策に取り組んだ事例を紹介いたします。



【24年度、25年度の旬別の気象値（盛岡）】



【県内の畑地かんがい実施地区】



### きゅうり

**概要**  
定植時期に少雨によりほ場が乾燥していたため、散水チューブで全面かん水し、定植作業を実施

**効果**  
定植後、点滴かん水を実施

**効果**  
①定植前のかん水で、活着が順調  
②点滴かん水により草勢が良好で、初期生育が安定

**概要**  
5月中旬からの定植時期や、その後の6月上旬の活着期に降雨が少なかったため、定植以降継続してかん水を実施



### ピーマン

**概要**  
5月中旬からの定植時期や、その後の6月上旬の活着期に降雨が少なかったため、定植以降継続してかん水を実施

**効果**  
①定植時・直後のかん水で、活着が順調

**効果**  
②点滴かん水やスプリンクラーによる散水で、初期生育が安定し生育遅延を防止

**効果**  
③未かん水ほ場と比べ、尻腐れ果の発生が少ない



ピーマンの尻腐れ果



点滴かん水チューブ



点滴かん水利用のほ場（一関市）



定植前のかん水（二戸市）



### レタス

**概要**  
定植時・定植後、朝夕にかん水を継続

**効果**  
①定植時及び定植直後のかん水で、活着及び初期生育が順調、枯死株も減少

**効果**  
②収量が無かん水ほ場に比べ約120%多（農家聞取り）



### ほうれんそう

**概要**  
播種時、生育初期にかん水を実施  
出芽後に乾燥防止のためかん水を実施

**効果**  
①出芽の揃いが良好  
②出芽後も適時かん水し、初期生育が安定

**効果**  
③無かん水ほ場と比べ収量が約25%多（農家聞取り）



生育初期のスプリンクラーかん水（普代村）



乾燥防止のためハウスサイドのミストチューブかん水（洋野町）



定植後のスプリンクラーかん水（一戸町）



### りんご

**概要**  
干ばつ時に改植ほ場において約1週間ごとに散水

**効果**  
①幼木の定着が良好

**効果**  
②無かん水ほ場では小玉傾向であったが、果実の肥大が良好



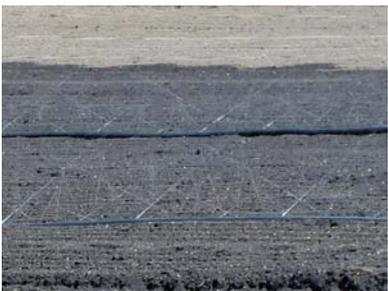
### にんじん

**概要**  
播種時に散水チューブかん水を実施

**効果**  
出芽の揃いが良好



少雨でも順調な出芽（軽米町）



播種後の散水チューブかん水（軽米町）



散水チューブ



散水チューブ

干ばつ時の散水チューブかん水（二戸市）

●このページに関するお問い合わせ  
岩手県農林水産部農村計画課

Tel019-629-5666 / Fax019-629-5679 / E-mail:AF0006@pref.iwate.jp